

～2025年日本国際博覧会（大阪・関西万博）に農林水産省が出展！～

農林水産省は、2025年6月8日から15日まで、国税庁・文化庁と協力して、日本の食・農林水産業の魅力を発信するブース展示とステージイベントを出展します。

世界をもっと豊かにつなぐ。

そんな想いを込めて、会場 WASSE を「伝統をつなぐ」「多様性をつなぐ」「未来へつなぐ」の3つのテーマに分け、食にまつわる各種展示や試飲・試食・食品のサンプリング配布を実施します。

【期間】

6月8日（日）～15日（日）

【会場】

2025年日本国際博覧会
（大阪・関西万博）
EXPO メッセ「WASSE」
《South》
ポップアップステージ西



【展示】

RELAY THE TRADITION
伝統をつなぐ

何世代も受け継がれてきた日本の伝統的な農林水産業により形成された風景や地域の営み、食文化などを紹介するエリア。

1 かんがい	2 農業遺産	3 棚田
4 日本の食文化	5 海業	6 農泊・渚泊



RELAY THE DIVERSITY

多様性をつなぐ

日本に根ざした、多様性のある産物を見つめなおし、
また様々な産物から日本の食を再認識するエリア。

テーマ7	輸出	テーマ8	和牛	テーマ9	日本産酒類
テーマ10	和菓子	テーマ11	茶	テーマ12	いぐさ
		テーマ13	ジビエ		



RELAY THE FUTURE

未来へつなぐ

日本の食と暮らしを支える農業、林業、水産業それぞれの
強み、課題、未来に繋げていくための取組を紹介するエリア。

テーマ14	フードテック	テーマ15	スマート農業	テーマ16	スマート林業
	テーマ17	みどり戦略	テーマ18	スマート水産業	



※ 詳細は下記アドレスから農林水産省のホームページをご確認下さい。
詳しくは→大阪・関西万博 農林水産省 特設 Web サイト：農林水産省へ
農林水産省 HP ⇒ <https://www.maff.go.jp/j/keikaku/syokubunka/relay-the-food/index.html>

～みどり戦略学生チャレンジ募集中！～

「みどりの食料システム戦略」の実現に向けて、将来を担う若い世代の環境に配慮した取組を促すため、農業大学校や農業高校を含む大学生や高校生等の個人・グループが「みどりの食料システム戦略」に基づいた活動を実践する機会として「みどり戦略学生チャレンジ」を開催しています。第2回みどり戦略学生チャレンジの参加登録を受付中！

参加登録フォームは[こちら](#)！

https://www.contactus.maff.go.jp/j/form/kanbo/kankyo/midori_challenge.html

(参加登録期間：令和7年4月1日（火曜日）～6月30日（月曜日）)

(取組実施期間：令和7年1月から11月までの期間（一部でも可）内に実施した取組が対象)

詳細は[こちら](#)！https://www.maff.go.jp/j/kanbo/kankyo/seisaku/midori_challenge.html

彩の国 農業人

～江戸時代から続く農家です～
伝統をつないでいくため親子三代で奮闘中
石井 美咲さん

埼玉県川口市で江戸時代から15代続く農家に親元就農し、伝統をつないでいくため親子三代で奮闘中の農業女子メンバーのISHII FARM 石井美咲さんをご紹介します。

川口市在住の石井さんは、大学を卒業後6年間介護関係の職業に就いていましたが、自身の生き方を改めて見つめ直しながら両親の手伝いを続ける中、地元川口市で江戸時代から15代続いている実家の農業を継ぐことを決意し2022年6月親元就農しました。

栽培品目は、川口市木曾呂地区の特産品のハマボウフウをはじめ、川口市農業ブランド認定の推奨品農産物となる金時生姜や八つ頭、その他サトイモ、サツマイモ、ジャガイモ、葉生姜、ネギ、ケール、クキブロッコリーなど露地を中心に多品目を栽培しています。

父親から日々学んでいる栽培技術と、就農1年後に埼玉県の農業経営塾の講座を月に2回、半年間ほど受講し学んだ経営術を生かしながら、自身の農業の確立を目指している農林水産省の農業女子メンバーです。

販売はこれまでメインとしていた直売所のほか、就農当初はなかなか販売先が拡大できませんでしたが、直売所等で知り合った方々の協力を得て、新たに駅前スーパー等の販売先を確保しました。食材の販売先の一つである市内の障害者就労継続支援事業所では、石井さんの生産したケールを使用したオリーブオイルの製造を行っています。また、インスタグラム等のSNSの発信も販売戦略のアイテムとして活用しており、配信を見た方からのメッセージを受け、ネット販売も始めました。

就農フェアでは県外の同業者と知り合いとなり、共同で何か出来ないか模索しています。

最近では、アウトドアグッズを開発・販売している株式会社モンベルが農作業服の開発を行っており、農業女子として意見参加しました。

今後は、「農業を通じたイベントや体験が出来るような農業経営を目指していきたい。特に、子ども達と一緒にできるコミュニティを作りたい。さらに、農産物の価値を高め、農業でも一般のサラリーマンと同様の休暇や給料体系となる社会にしたい。」と目を輝かせながら語ってくれました。



石井 美咲さん



ハマボウフウの収穫作業

編集：関東農政局 埼玉県拠点

〒330-9722 さいたま市中央区新都心 2-1 さいたま新都心合同庁舎 2号館

TEL 048-740-5835

< 関東農政局HP > <http://www.maff.go.jp/kanto/>